

## 知人・友人各位

11月の半ば過ぎから故郷の秋田は大雪とのこと。最近はや暖冬続きで雪の少ない冬に慣れているので、こんなに早く冬将軍がやって来ると皆戸惑っていることでしょう。海辺で風が強く内陸に比べ雪の少ない故郷の八森ですが、それでも昔は結構降ったものです。特に高校生の頃は雪が多く、大雪のため通学していた五能線がよく不通になったり、何時間も遅れたりしました。そんな時は寒風の吹き込む能代の駅でストーブを囲んで本を読んだりしながら、じっと汽車の来るのを待ったものです。それに朝8時半からの授業に間に合うには吹雪をつけて6時半のSLに乗るしかない上、学校に着いてから1時間も待たなくてはならなかったり、勉学の上では条件の悪い汽車通学でしたが、出身中学が違っても通学仲間でも仲良くなったり恋が芽生えたり、楽しいことも結構ありました。汽車の中で並んで立ち平家物語や徒然草を読んでいる振りをしながらページの余白に「好きだよ」なんて書いて会話を楽しむ者がいれば、下駄箱で交換日記をする文学少年がいたり、駐車場の裏の初めての接吻に打ち震えるカップルがいたり。そんな者は今頃、あの時のあの娘はどうしているのだろうかと思いつけているのかも知れないなど思いながら、雪に降り籠められた気分で暖かな夜の都の方丈の庵から個人通信の16号を送ります。

## ◎小淵総理と国際大学村

今回の第3次補正予算で東京の臨海副都心に外国人留学生向けの宿舎や交流施設を中心とした「国際大学村」を建設することが決まった。文部省が通産省や科学技術庁とも協力し先端技術紹介拠点や産学連携のためのベンチャー企業育成施設も併設され、国際的な人材交流や共同研究の拠点を作るという。時代に合ったいいプロジェクトだ。青海地区の十ヘクタール余の土地に留学生宿舎3千戸を含め予算3千億円という大構想も各役所の他のプロジェクトとの調整、大蔵省との折衝で6掛けの6掛けの規模に落ち着いたらしい。それでも1千億円以上の大金だ。景気浮揚のためとはいえ赤字国債で賄い、いずれ税金で償還され国民の負担となる以上、仏作って魂入れずということがないように願いたい。40ヘクタールの敷地に百カ国以上の留学生、研究者ら約6千人が生活するフランスの「パリ大学国際都市」の日本版をイメージしているとのこと。お手本があるので心配する必要はないのかも知れないが、東大三鷹国際学生宿舎の轍は踏まないようにお願いしたい。

団塊政策研究ネットワークの10月の勉強会の帰りに干場委員会の寮委員であった渡辺日佐夫東京都港湾局開発部長(42年入寮)に西新宿の地下道で出会う。文部省に土地を買ってもらう側の責任者だという。景気対策で急に出てきた話でコンセプトがはっきりしないというので、後日あらためて都庁に彼を訪ねる。留学生にとっては家賃などの生活費が高くてバイトに明け暮れ、何のために日本に来たのか分からないような状態で、日本にいい感情を持ってないまま帰ってしまうのではいけないと、小淵総理が就任時に発案したという。もっとも、いい話なのでもっと詳しく聞こうと赤坂の小淵事務所を訪ねて秘書の方に会っていただいた時は、「うちの総理がそんなこと言ってるんですか」と臍に落ちない顔をしていたが。ともあれ留学生に良好な学習・研究環境を提供して優れた成果を上げてもらい、日本人とも交流して日本を良く理解してもらい、日本にいいイメージを持って帰ってもらうのは、この国際化の時代に大変いいことだ。

そのためには留学生宿舎だから留学生だけいれると杓子定規に考えず、日本人の学生・研究者も住ませる様にしたい。外国人ゲッターにしてしまうのでは、外国人同志の交流は進んでも日本への理解は余り深まらない。日本人学生・研究者も一緒に住むことで日本人の国際感覚も居ながらにして高まり、外国人の日本理解の手助けにもなる。その際、三鷹寮のように留学生は大学院生、日本人は教養の学生で年齢と知的レベルに差があり過ぎ交流がスムーズに行かないと言ったことがないように配慮して欲しい。又、研究者用宿舎千戸も合わせると4千戸の街作りだが、三鷹寮のように風呂や食堂も含めて学生が溜まる所は作らないということのないようにしてもらいたい。ホールや図書館は当然だが交流のためには他に溜まり場が必要である。各戸の風呂やシャワーは勿論のこととして、浴場も作って欲しい。三鷹寮ではシャワーだけなので日本人学生は困る様だ。1千億円も使うのなら1億円くらいで温泉でも掘りお台場温泉として一般にも開放すれば裸の国際交流になる。国の方でどうもというのなら渡辺君どうだろう。国からもらう土地代金から1億円割いて港湾局で作るのは。臨海副都心にスーパー銭湯の一つくらい必要ではないか。各戸にキッチンもつくだろうが、食堂やバーも欲しい。食べながら、飲みながらワイワイするのは交流のためには必要である。日用品を買うスーパーやコンビニも必要だ。留学生や研究者用宿舎であれば単身者用だけでなく家族用の部屋もあるのだろうが、そうならば保育園も必要になる。これらはクローズドにして直営でやるのは難しいかも知れない。かって三鷹寮では自治寮として食堂も寮委員会が経営していたので自分達が大学闘争でストライキをして団体交渉を要求し教授会を追い駆け回している一方で、食堂従業員から賃金引上げを要求されストライキを武器に団体交渉を求められるという、まさかのピンチがあった。この時食事委員として解決に苦勞したのが渡辺君だったと思うが、学生でなくとも直営にはしない方がいい。敷地の外周部に国際色豊かな飲食店街や物販店、保育園やスーパー銭湯を作り、提案入札で業者を決めて経営にあたらせ一般にも開放すればいい。東京新名所の「国際村」が出来るといい。その内側には散策と憩い、語らいの場としてグリーンベルトを作り、東屋など置けば交流と勉学・研究の場との緩衝地帯として両方の機能を満足させられるだろう。そして得たテナント料を原資にして宿舎の入居者の利用料金を割り引くとか奨学金に当てるとかして、留学生を援助するというのはどうだろう。

ところで、9月末に学士会館で柳澤伯夫国土庁長官（32年入寮）の大臣就任祝賀パーティを三鷹クラブ有志で開催、私も呼掛け人の末席に名を連ねる。直属の部下の丸山博国土庁秘書課長（43年入寮）や事務次官を退任されたばかりの伴裏建設省顧問（34年入寮）、宮路和明（36年入寮、自民党）、北橋健治（46年入寮、民主党）代議士など、政・官・財・学の多彩なメンバーが集まり盛会だった。同じ釜の飯を食った連中の集まりで気を良くしたのか「全く何にも知らない総理で」という大臣の発言がありどっと沸いたが、国際大学村という時宜を得たプロジェクトの発案といい、上記発言のあった柳澤大臣を要の金融担当相に起用する度量といい、小淵総理は意外と名宰相なのかも知れない？！

#### ◎寮祭再度復活！宿舎の早期完成を！

かっての三鷹寮、新生「東大三鷹国際学生宿舎」の欠点をあげつらいましたが、そんな悪条件にもめげず国際交流の輪を広げようと若者達は頑張っています。去年は終に行われなかったのが今年からは最初から諦めていた寮祭ですが、秋の学園祭シーズンに通の手書きの招待状が私の所に届いたのです。プログラムも何も入っていません。ただ恒例の宿舎祭

をやりますから来て下さいとあるだけ。11月1日(日)に開催しますとあり時間も書いてありません。それでも後日寮の事務室に杉本自治委員長の電話番号を聞いて時間を確認、当日は家で昼食を済ませてから金一封を持参、OB会を代表して参加しました。

寮の入り口の広場ではフリーマーケットで各国の民芸品が売られ、かつてのイチョウ並木にはアジアや中南米の料理の屋台が並び、共用棟ホールではアメリカから来た宣教師のバンドがスタイル抜群の金髪のお嬢さんとカントリーソングや日本語の歌を面白く歌っています。ホールではコロンビアのセクシーなダンスの講習会や応援団とチアガールの実演が続きました。

加藤登紀子さんに無料出演してもらい盛り上がった復活第一回の寮祭に比べると確かに盛り上がりには欠けますが、「国際学生宿舎」らしく国際色豊かです。留学生も一緒に手作りのイベントをやり交流する。そんな環境で生活する国際感覚豊かな学生がこの国の各界の指導者に育っていった時、周りの国との首脳会談の度に過去の歴史への反省を迫られる様なみっともないことはきっと無くなっているでしょう。規模は小さくとも2回、3回と続け、確実に交流の輪を広げて行って欲しいと思います。肌の色の違った若者が同じ屋根の下に住み、共同の作業を繰り返しながら相互理解を深め国際感覚を磨く。そういう機会を持てるというのはむさ苦しい、日本人の男だけの古い寮で育った者からすると素晴らしいことです。

そしてこの素晴らしい機会をより生かすためにも、是非早期に共用施設の充実した国際学生寮として完成して欲しい。入寮希望者が多いようなので現状の六百人から予定の千人規模に拡大し、大ホールや図書室、できれば風呂や食堂やバーなど語り、集える場を作って欲しい。駒場寮の廃止が学生の抵抗で難航し、現状では予算がつかない様ですが、駒場寮の問題がここまで長期化してしまった以上、これとは切り離して考えるべきではないでしょうか。駒場寮の問題の解決の巧拙と現に三鷹国際学生宿舎に住んでいる者の学習環境、生活環境の充実は今や別個の問題ではないでしょうか。現に留学生が必要とする宿舎が不足しているから、良い環境で研究・学習し日本理解を深めて国際の平和と繁栄に貢献して欲しいと臨海副都心に留学生村を作ろうとしているのです。文部省担当の宿舎千戸で土地代をいれて550億円。その数分の一以下の予算でその半分近くの4百人の宿舎、いや既に住んでいる者を含め千人の学生にとってより素晴らしい宿舎が提供できるのです。

### ◎異文化体験の愉しみ

三鷹市後援、三鷹国際交流協会と東大教養学部共催で12月19日(土)に「東大三鷹国際学生宿舎留学生と三鷹市民との交流の集い」が開かれます。三鷹国際学生宿舎共用棟ホールで3時からシンポジウム「異文化体験の愉しみ」が行われ、終了後懇親パーティがあります。シンポジウムの講師には今年元ブルガリア大使(通産省から出向)の藤原武平太シャープ専務取締役(34年入寮)が参加します。最近の寮はと関心のあるOBはこの機会に顔を出してみても如何でしょうか。

### ◎「混迷するロシアと北方領土の行方」

1月22日(金)の第23回三鷹クラブ定例懇談会はマスコミでもお馴染みのロシア問題の権威、袴田茂樹青山学院大学教授(S38年入寮)に登場していただきます。この夏の政変と通貨危機で混迷の度を更に深めたロシア経済は、世界経済を奈落の底へともう一步

導いたかに見えます。IMF主導の下に進められて来たロシア経済の急速な市場経済化は果たして核大国ロシアの経済を建て直し、社会を安定させ得るのか？それに変わる処方箋はあるのか？日本の果たし得る役割は？対露ビジネスの在り方は？そしてこの秋の日露首脳会談で北方領土問題は果たして進展したのか？首脳の個人的信頼関係に頼るかに見える対露外交で成果は期待できるのか？エリツインの命運は？疑問符だらけの混迷するロシアと北方領土のこれからについて、斯界の権威に話していただきます。場所は学士会館本館（千代田区神田錦町3-28 ☎03-3292-5931）です。

尚、3月16日（火）の大阪弥生会館での第24回目は、紀元前に北魏の都として栄え今は中国最貧の半砂漠地帯と化した山西省の黄土高原に、「愚公山を移す」如くに木を植え続ける高見邦雄「緑の地球ネットワーク」事務局長（S41年入寮）に映像を駆使して「黄土高原緑化と奥中国事情」について話していただきます。彼は中国で最も遅れているかに見える黄土高原こそ実は文明の最先進地であり、環境をないがしろにする人類の未来こそ黄土高原の現実の姿で、黄土高原の村から大同、北京、大阪へと移るごとに人間関係が刺々しくなっていくのがわかると説きます。

いずれもPM6時開場、6時半開会で食事、飲み物つきで会費は5千円です。終了後講師を囲んで二次会があります。会員以外でも参加を希望される方は小生まで、電話かFAXでご連絡下さい。

#### ◎愚公山を移す

11月17日（火）にホンダの吉野社長（34年入寮）を講師に22回目の三鷹クラブ定例懇談会が行われました。この不況下でも好調な経営を続けるホンダの秘訣を聞こうというのか、前回の国際エコノミスト中前忠氏（33年入寮）の講演に続いて今回も百名以上の参加があり、盛況でした。

ホンダイズムとも呼ばれる独特の経営を行うホンダですが、世界中お客さんのいるところで工場を作り、その国、地域にあった車の生産を行うマーケットインと売上の5%を研究開発費に注ぎ込む技術重視の方針が印象的でした。進出した先では先ず二輪車を売り、若者を中心に二輪車のユーザーを増やし市場と工場の技術が成熟した段階で四輪車の工場を作り、二輪車から四輪車に乗り換えてもらうというにくいばかりのマーケット戦略。技術重視の方針から再参入したF1レースでも、勝ち続けていてもスタッフは3年で入れ替えるとのこと。レースには負けてもスタッフを変えた方が技術の向上につながるのだという。今一番力を入れているのが燃料電池の開発で、究極は水素電池ではないだろうかということ。遠くない将来に水素電池を積んだ車を実用化する見通しが既に立っているとのこと。かつて水俣にまで出掛けた環境派としては化石燃料を全く使わない車に早く乗ってみたいものである。

運輸省で高速ライナーなどの新技術開発に携わる佐藤守信君（41年入寮）からは政府の補助金は使わないのかとの質問も出るが、全く興味はないとのこと。公共事業だ、銀行に公的資金を注入しての債権放棄だ、徳政令だと政治家を動かしているどこかの業界とは大違いだ。もっともその業界から仕事をもらう手伝いを仕事としてしまった私が言うのは、天に向かって唾するようなものだが。一点の曇りもなくきっぱりと自らの立場を言い切れる先輩には感服。アメリカ型と日本型とどちらが世界の経営の流れになるかとの質問には、ホンダは決して日本型の経営ではないが、カンバン方式などアメリカも日本に学んで来て

おり、日本も今は欧米流に近づいているので、折衷型になるのではないかとのこと。景気が悪くても決してレイオフはしないとと言いながらホンダは日本型ではないと言い、昔から年功序列は取らず実力主義だと言うところをみると、ホンダ流こそ世界の流れということか。社業と違うところで社会貢献はしないのかという質問には本業しかしない、余資の運用という形での金融業もしないということで、トヨタとの違いも鮮明だ。飽くまでも本業を通じて社会貢献するというので、確かに水素電池を実用化し化石燃料を使わないエンジンを開発したら人類への貢献大なるものがあるが、この時せつせとスコップで黄土高原に穴を開け木を植え続ける高見君の顔を思い浮かべる。片やホンダという大組織の資本と技術力を駆使して二酸化炭素を排出しないエンジン（これがエンジン-内燃機関と言えるか）を開発し、一方は二酸化炭素を吸収する森を徒手空拳で作ると言う。「愚公山を移す」（毛沢東）ということの意味を考える。かって誰が「公害」防止技術がここまで進み、その開発こそが企業の死命を制すると考えただろうか。

### ◎30年振りの合コン

もう何十年も会っていない駒場の中国語クラス（Eクラス）の1年上の村田横国大教授からこの夏電話をもらう。かつて駒場祭の中国語劇や那須の山奥の三斗小屋温泉での中国語合宿を一緒にやったお茶大の連中もいれて合同同級会をやるので、私のクラスの名簿も欲しいという。学生運動と寮活動ばかりしていてクラス活動は余りしなかったし、何だいい年をして合コンをやるのかとひっかかりながらも、ネットワーカーを自称する私としては直ぐ参加することに決め名簿を送る。

まさかまだそのままの姿であるとは思っていなかったが、30年前と同じく古色蒼然と駒場の片隅にたたずむ木造の旧制一高の同窓会館に、関西で農業の傍ら雑誌「百姓天国」を発行する麻野先輩や、お堅い長野選出の共産党の木島代議士、東北管区警察局長で役人生活を終えたばかりの福島弁丸出しの浅川先輩もいる。クラス活動を通じてお茶大生と結婚した文科2類・3類（LⅡⅢ）のクラスの東京電力の西広君は奥さんも一緒だ。お茶大からは他に二人。総勢20人ほど。たまたま地下鉄の霞ヶ関の駅でバッタリ会った中央監査法人の公認会計士の服部君の名刺を持っていたので村田先輩に教えたのだが、LⅡⅢのクラスは卒業後は交流がほとんどないらしく40人ほどいた筈なのに出席はこの二人だけ。25人のLⅠのクラスは私の他に千葉地裁の鳥路君と弁護士の西内君の3人。11月26日には敦賀で裁判官をする小林秀和君の上京にあわせ10人の同級生が赤坂の商船三井の倶楽部に集まって、確か今年4度目になる同級会をやる。終身幹事と煽てられると意気に感じて同級会のインフレーションを起こす私のような変な人間がいるクラスと普通のクラスの違いか。

昔と同じくすき焼きをたらふく食べて、ビールとお酒を浴びるほど飲んで会費は4千5百円。学生時代に帰ったような値段だ。二次会は渋谷へ繰出しカフェモーツァルトなところへ。上のクラスの日本レストランシステムズの上林オーナー社長傘下の店だという。店頭公開している東進予備校の働ナガセ（三鷹寮出身の永瀬兄弟が経営）などもあるが東大出身者がオーナー経営者というのは珍しい。同社では色々な業態の店を持っているというのに、お酒のない店でケーキセットを食べてお開きとなったのは合コン故か。

### ◎名付け親逝く

この春から骨癌で闘病生活をしてきた三谷恭正先輩（33年入寮、スミスバーニー投資顧問社長）がこの秋亡くなった。余命半年といわれながら、医療について一家言持つ彼は抗癌剤を投与する一般的治療法を避け独自療法で病と闘っていたが、余命を数か月延ばしたとはいえ終に力尽きてしまった。通夜と告別式に一日間があったので、33、4年入寮者を中心に寮の人間だけで特別に送ることにした。秋の夜長、故人を肴に酒を酌み交わし、最後に枕元で皆で三鷹寮の寮歌「新墾」（ニイハリ）を歌う。「新墾のこの丘の上・・・片割れの夕月落ちぬ・・・逝きし友そぞろ偲ばる・・・」。いい歌だ。東大闘争の時寮委員長だった私は、性を商品化し女性を蔑視すると猥歌を歌うのを制したのは是として、エリート意識丸だしの反階級的な歌だと寮歌を歌うのまで抑さえ、45年入寮生以降にはこの「新墾」さえ歌い継がれることをなくしてしまった。その若き日の直情径行を思いつつ歌う。狭い部屋に30人以上、兜町の哲人を自称しながらこの数年思うように行かず、満を持していたに違いないビッグバンを目の前にして逝く無念を思ってか、皆涙している。

三谷先輩は三鷹クラブの言い出しっぺで、できてしまうと運営の中心からは外れる、そんな彼であったが、本質を見抜くのは得意で（?!）この「アマダイ通信」の名付け親でもあった。「お前は頭が大きく、何となくポーッと笑って見えるところが甘鯛と似ている。甘鯛の一夜干しは別名銀座干しと言われ高級品だ」との言葉をさっそく拝借した。甘鯛はモザイクタイルの様にキラキラ光って美しい、そこで？英名を「TILE FISH」という。会社名が「甘鯛企画」ではちょっとおかしい、ひとひねりして「ティエフネットワーク」とする。三谷先輩に合掌。

#### ◎欠礼します

和歌山の砒素中毒殺人事件の解決が長引いている。別件で起訴したが本件で立件できるのだろうか。素人目には保険にも入っていない不特定多数の人間を殺す動機がわからない。状況証拠は揃っているが決め手がない。そこで自白を得るべく別件逮捕したのだが夫婦とも黙秘し警察は困っているかにみえる。警察は自白させるために色々な手を使う。学生運動での私の経験など甘いものだろうが、それでも机を叩いたり、声を荒げたり。「一緒に捕まった〇〇はもう白状している。お前だけ頑張ることないんだから」と偽計を弄したり、「親が公務員を続けられないよ」と泣き落としにかかったり。真須美の場合は「極悪人」だ。厳しく攻められているだろう。それでも口を割らないのは「立派」だ。決め手がなくて喋らせようとしている訳だから、自供しなければ勝ちなのである。不祥事で捕まったりすると直ぐ自白する大会社の経営者や高級官僚がとは大違いだ。黙秘権くらい大学で習っている筈だ。自白するくらいならやるなと言いたい。元官僚の先輩に聞いたら一度自白すると今度は仲間を増やそうと積極的に喋る者もいるという。呆れた根性である。

ところで学生運動で何度か捕まり二審で猶予になったとはいえ、一審で実刑判決を受け臭い飯も食った身である。それなのに身の周りに公安警察の気配を感じたことがない。聞けば未だに自宅や職場で刑事の訪問を受ける者もいるという。すると逆に何となく寂しい気分になったりして不思議なものだ。この夏父が92歳で大往生して昔話に花が咲いて、駐在のお巡りさんが代わる度に「坊っちゃんはどうしていますか」訪問を受けたのだと聞く。私はそれで納得がいった様な、ほっとした様な気分も覚えたのだが、親父には大屈辱だったらしい。まさかあの世までお巡りさんも追いかけないだろうから、親父も今はさばさばしているに違いない。そういう訳で新春の挨拶は欠礼させていただきます。

### ◎秋田は大丈夫かね

来春の三鷹クラブの大阪での講演会のお願いやら、頼み事やらで過日JR西日本の南谷社長（35年入寮）を訪ね、帰り際に「干場君のところは大丈夫かね」と聞かれる。懸案を沢山抱える私はハッとするが、最近巷を騒がす秋田県の第三セクターの住宅会社「秋住」のことらしい。ミサワホームの子会社にいた時に秋田杉のプレカット材を秋田から運び、秋田の大工さんに住宅を3棟建ててもらった。その話を覚えていてくれたのだ。秋田県人として大いに恐縮。今回の騒ぎである時世話になった秋田の藤里町の第三セクターの秋田プレカットも迷惑を被っているのではないだろうか。私が建てた辰邸（41年入寮）も豊浦邸も、もう1棟のアトリエも立派に建っている。藤本社長に頑張ってもらいたい。

最近「秋住」の後にも県の畜産公社の幹部が牛の餌代を飲み食いしてしまったというのがあった。「食糧費」で佐々木知事が辞任した後も不祥事が続くのは困ったものだが、知事が5選もすると権力が極端に集中し腐敗するのだろう。「絶対的権力は絶対に腐敗する」とすれば、県民や議会がチェックしなければいけないのだが、公共事業中心でオカミ頼み、人のいい県民性も災いしているのか。知事も代わったことだし、心機一転出直しと行きたいところである。

### ◎新空港に降りる

10月中旬にそんな秋田に空から降り立った。担当の「ハッピーバースデー（3連休）法案」を際どく成立させて、わざわざ休暇を取って能代に講演に駆け付けてくれた運輸省石井観光部長（入寮同期）のお供をして大館能代空港に初めて降り立つ。危なく席をとれないところで東京便はよく利用されているらしい。せっかくだからと子育てを終えた奥さんも同行。何となく羨ましいやら反省やら。それに翌日は白神山に登った後、二人でビュートレイン白神号で五能線をのんびりと旅してから岩木山に登るのだと聞いて、白神山と五能線も有名になったものだと少し誇らしい気分になる。

講演会の後半で私も壇上に上がり、地元の方々も交えシンポジウム。観光客を呼ぶにはまだまだインフラの整備が必要だ。トイレの水洗化は進んでいるが、ドアに鍵のかかる宿、部屋に浴室のあるホテル、大きな浴場を備えた旅館も必要だし、料理も魚が美味しいと魚だけ、どこへ行っても決まったものしか出ないというのも困りものなどの話が出る。それにこれだけ国際交通が発達するといきなり国際競争にも巻き込まれコスト競争力もつけなければならない。なかなか大変であるが、雄大な日本海とブナの原生林の白神山を始め、観光資源は沢山ある。

幸いJRも東京で白神山と五能線の宣伝をし、パック旅行を組んでくれたりしている。今は八森にホテルがないので泊まりは男鹿や深浦のホテルになっているが、JRが秋田白神駅の脇にホテルを作るといふ。そうなれば状況も違ってくる。この12月の7日に上野秋田支社長に時間を取っていただいているが、ホテルの話聞ければ楽しみだ。

### ◎アゴ足つき

この夏秋田に帰省しバスケットで有名な能代工業高校の英語の先生をする中学以来の旧友、佐藤勇一君を訪ねご馳走になる。ご馳走になった上彼に迎えに来てもらい、帰りは奥さんに送ってもらう。アゴ足つきとはこのことだ。新幹線や飛行機で田舎へ帰ると身動きがつかない。JRもバスも本数が少ない。タクシーも町にはない。一人では何処へも出

掛けられない。勢い義姉に送ってもらうか、相手方に迎えに来てもらわなければならない。たまに帰省する私はいいとして、普段車なしで生活する人はたいへんだらうと思う。特に老人と子供は。今では能代市の病院では近在の町村から通う老人を送り迎えしてくれるという。

それでは老後を故郷で過ごそうとしても、とても住めないなと思っていたら、ことは過疎地ばかりでなく都市部の問題でもあるらしく、東京の武蔵野市ではムーバスと称して低料金で住宅地の巡回バスを走らせているという。さすが武蔵野と感心していたら、隣の三鷹市でも同じようなバスを走らせ始めたようだ。日本で一番の裕福な市だから当然かも知れないが、病院がバラバラに走らせるコストを考えたら、近隣の市町村や病院も金を出し合い過疎地でも交通弱者の足を確保できるのではないだろうか。そうすれば八森中学同期の石上さんの様に、ご主人の定年を期に田舎の豊かな自然とゆったりした時間の中で老後を過ごそうと田舎へ帰る人間が増えるかも知れない。

### ◎勝手に応援だ！ん？宣言その5・・・私もTalking Monkeys

団塊政策ネットワークの世話人を一緒にやっている企画・編集会社同文社オーナーの前田君が突然仲間を語らって飲み屋を始めてから半年経った。仲間が集まり勝手に話し飲み食いできるサロンを作ろうという話は団塊政策ネットワークの前進、プロジェクト猪の時からあったのだが、サロンプロジェクトの世話人と目されていた男はいい女に目が眩んだか？行方知れず。女の目の方が病んでいたのかも知れないが（こんなこと言ってごめんよK。ところで今何処にいるのだ）。気の早い前田君がシビレを切らしてしまったのだ。

何だ焦って相談もなしに勝手に始めやがって、こんな不便な所に作りやがってと、最初は足を運ぶ気にならなくてもハズミで顔を出して顔見知りと出会うと、又、足を運んでしまう。そして会員になったら特典として企画を打てるとは言っても、知恵も汗も出して客を連れて来いということじゃないかと反発しても、何時の間にか5万円巻き上げられて会員にさせられてしまっている。そんな不思議な店です。

店ではバイアグラ講座とか、タンゴのコンサートとか、「美しい田舎がやって来る 岩手県東和町」とか歌舞伎と講談とか、競馬大予想大会とかの催事をよくやっています。それで企画能力のない私は（と言いながら、東和町の向こうを張って秋田の物産展ができないかと思ってしまう）勝手に応援団宣言をすることでそれに代えたいと思います。

尚、下の地図を持参した方は1月中、通常7~8千円のボトルを半額に、料金千円引きにしてくれることになっています。宜しく！

# Talking Monkeyz

トーキング・モンキーズ  
東京都新宿区新宿5-4-1QフラットビルB1  
TEL/FAX:03-3355-7299  
営業時間：月曜～土曜 PM 6:00～AM 2:00  
(日祝休・貸切利用応相談)

